

4年目の今福線研究分科会に参加して

服部 輝明

1. はじめに

かつて浜田市に「幻の鉄道計画」が存在しました。広島県の可部に向けて走るはずだった路線で、その名を「今福線」といいます。太平洋戦争前、及び戦後の2回にかけて着工がなされたものの、そのどちらも未完成に終わった数奇な運命を持ち、計画自体が中止された「未成線」として鉄道史に刻まれています。この「今福線」の遺構である数々のトンネルや橋梁は現在も残されています。なお、戦前に着工された下府駅を起点とする計画路線は旧線、戦後に着工された浜田駅から伸びる計画路線は新線と呼ばれています。また、旧線と新線が交錯するポイントになるのが「下長屋トンネル」です。



図1：今福線位置図

今福線研究分科会は、鉄道遺構を後生に残すため、また地域資源としての利用方法を複数年かけて検討するなど地域活性化のため、活動しています。

2. 今福線研究分科会の活動内容

私は今福線研究分科会の活動に今年度から参加しましたが、本分科会は今年度で4年目を迎えました。4年間の活動の経緯は次の通りです。

1年目・・・基礎調査

2年目・・・現地調査及び地元交流による情報収集

3年目・・・今福線マップの素案作成

4年目・・・今福線マップの初版作成と下長屋トンネル現地調査

7月14日(日)13:00～：第1回打合せ(今年度の活動内容の確認)

12月7日(土)10:00～：第2回打合せ(マップ修正に関する意見交換)

13:00～：下長屋トンネル現地調査

12月～1月：初版発行に向けてマップ修正

本稿では、今年度の活動報告として、作成した今福線マップ(初版)の状況と下長屋トンネル現地調査結果を報告します。

3. 今福線マップ(初版)

昨年度の素案から、今年度は観光マップのような今福線マップ(初版)が仕上がりました。



図2：昨年度のマップ素案(4枚中4枚目)



図3：今年度のマップ(初版)(4枚中4枚目)

作成した今福線マップを浜田市や県の観光協会等に配布するとともに、島根県技術士会のホームページに掲載する予定です。なお、今年度作成したマップはあくまで初版とし、今後、来訪者にもわかりやすいように案内ルートを示すなど、より充実したマップになるように更新していく必要があると考えています。

4. 下長屋トンネル現地調査

今福線の中で最長トンネルである「下長屋トンネル」の内部の現状を把握するため、管理者（浜田市）に立ち入り許可を得て、現地調査を行いました。



写真 1：断面変化（トンネル中間地点）



写真 2：銘板（延長 1,633m、昭和 50 年竣工）



写真 3：クラック（天井部）



写真 4：側壁の目地から土砂流出

竣工後38年が経過するトンネル内部は、至る所でクラック、剥離、浸入水が確認され、予想以上に劣化が進行していました。また、トンネル内を往復したところ、復路にて埃っぽさを感じました。

トンネル延長が1,633mと長いだけでなく、坑口から坑口が見える直線トンネルなので非常に珍しく、有効利用が期待されます。ただし、利用に当たって劣化に対する補修や換気・安全設備などが必要です。



写真 5：参加メンバー

5. おわりに

今福線マップの更新と有効活用、下長屋トンネルの有効利用などが今後の検討課題になると思います。地域と連携して課題解決に取り組み、地域活性化に繋がる成果が得られるように引き続き、活動していきたいと考えています。

- 以上 -